

平成 29 年度 第 2 回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 平成 29 年 11 月 8 日（水）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
会 場 桐原コミュニティセンター 2 階 大会議室
出 席 委 員 ◎中川 千恵美委員、○小西 ひとみ委員、
竹下 秀子委員、山下 亜由美委員、高野 徹夫委員、小林 優子委員、
川橋 袖子委員、榊原 かず子委員、伊藤 左登美委員、重野 弘樹委員、
河村 加恵委員、杉本 僚子委員、福永 利明委員、田中 留美委員、
安川 千穂委員
(欠席) 田中 裕喜委員、中江 栄理香委員、高塚 博樹委員、
佐野 淳子委員、久家 昌代委員、前出 みずほ委員
◎：会長等、○：副会長等

傍 聴 者 0 名

議 題 (1) 教育・保育給付対象事業の見直し案について
(2) 放課後児童健全育成事業の見直し案について
(3) 子育て支援に関するアンケートの結果報告

決 定 事 項

教育・保育給付対象事業の見直し案、放課後児童健全育成事業の見直し案を了承して、
子ども・子育て支援事業計画の中間見直し値として決定した。

議 事 詳 細

1. 開会

2. 会長挨拶

(会議の開催にあたり会長より挨拶)

会長 よく個別支援か地域支援かという考え方がありますが、どちらかではなく、
その両方が良い化学反応をする地域に向け、自治体の実情を踏まえながら
展開していかなくてはいけない。子どものことは関係者がベースになる
が、行政、地域住民、従事者、それから当事者がグループ化していける仲
介をどう展開していったら良いのか、多様な意見をいただきながら、改め
て考えていけたらと思う。皆さんにとっても、限られた資源というだけで
終わって良いのか、そこから発生する化学反応を、誰がどこでどう担って
いくのかということを考えていけたらと思う。

本日の議事の中で会議を公開することに格別の支障となる事項はないように思うので、公開としたいと考えるが、委員の皆さんよろしいか。

(異議なし)

それでは、近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱第4条の規程に基づき、本会議は公開とすることを決定する。

3. 議事

(1) 教育・保育給付対象事業の見直し案について

(事務局より、教育・保育給付対象事業の中間見直し案について説明)

(説明概要)

事業計画の中間見直しとして、前回提案した量の見込み案の再修正と、それに対する供給体制について提案した。

- | | |
|-----|---|
| 委員 | 2号3号の表で安土中学校区が不足している。今年度の状況と対応策、平成30・31年度の不足に対する対応策について、どう考えているのか。 |
| 事務局 | 安土中学校区では、19名定員の小規模保育事業所を平成30年4月から開所します。それでも解消はできませんので、引き続き、既存園の弾力的な受け入れ運用にて、2年度間については対応を考えています。 |
| 委員 | 一番自宅に近い所に入所させたいのが保護者の要望だと思う。地域住民から声が届いているかとも思うので、会議で共有しておく必要がある。 |
| 事務局 | 不足することに危機感を持っています。次期計画の見直しの中で、打ち出しをできるようにご審議をいただけたらと考えています。 |
| 委員 | 全市で見ると待機児童がゼロになる。実際はどうか。 |
| 事務局 | 今年度の4月1日時点で待機児童が71名となっていますが、平成31年4月に認定こども園が3カ所開園することによって、一定解消ができるであろうという方向性です。今回の見直しとして宅地造成による増加を見込んで、一定充足できると考えています。 |
| 委員 | 分譲宅地の入居率が安土中学校区では27.7%であるが、いずれは100%になる。新たな宅地開発もあるが、31年度のはどう考えているのか。潜在的なニーズもあると思うので、早め早めの対応が大事である。 |
| 事務局 | 現時点ではこれ以上の宅地開発がない限りは解消できる見込みとして、31年度までの計画として策定しています。次期計画の時は、その時点の |

中でニーズも把握し直して、新たな計画を立てさせていただきます。

委員 馬淵幼稚園の預かり保育が無くなると聞いた。また、幼稚園は3歳児の1学期が午前保育となり、送迎だけでも大変である。幼稚園での受け入れ時間や体制を考えていただきたい。

事務局 平成30年度に預かり保育のあり方を見直す予定です。また、午前保育への保護者ニーズは理解しており、平成31年度の認定こども園の開園に向け、教育課程を含めた中で公立幼稚園の見直しを検討しています。

委員 現に運営されている私立幼稚園もあるため、教育課程に対する根拠を示すなど、率直に状況を開示されて、検討内容を会議で共有していきたい。

会長 待機児童の問題は、その市への評価という側面も持っている。地域での居場所やサポートという面では、公立幼稚園の役割検討も重要である。そういう検討の過程が会議でも確認できればと思う。

(2) 放課後児童健全育成事業の見直し案について

(事務局より、放課後児童健全育成事業の見直し案について説明)

(説明概要)

事業計画の中間見直しとして、前回提案した量の見込み案の再修正と、それに対する供給体制について提案した。

委員 集団の規模としては40人以下が望ましいが、市の方針として目指しているのか。安土学区での3回目の公募については、どう評価しているのか。

事務局 実績として登録数の8割くらいが日々登園しています。50人定員の8割の40人が日々は来ているというところで、利用者が増えている状況もあり、50人定員を一つの単位として考えています。また、民設公募については当初3カ所を進めていましたが、安土学区の希望者増加を想定し、2回目から安土学区に絞っています。当初との違いとしては、整備補助の金額を増額しています。

委員 保育の質を考えて40人の実現を目指すのであれば、事業計画にも明記してほしい。専門性のある指導員が不足している。一緒に対策を考えたい。

事務局 事業者と協議を重ね、体制作りに努めていきたいと考えています。

委員 核となる人材の輩出が難しい。まずは指導員さんの話を聞くことから始

- 委員 　　め、人材育成の基盤を位置付けるため、就業規則の改定に取り組んでいる。
 　　ぜひ市内の事業者と連携・議論し、人材育成も含め、内実を作り上げて
 　　いく活動としての提案を期待したい。この動きに市は連動していただき、
 　　指導員の考えをキャッチして、次の施設づくりに生かしていただきたい。
- 会長 　　整備の提示はあったが、今後の展開として学童期の放課後に対する問題
 　　は大きな位置づけになることである。中身の議論、内容の経過について丁
 　　寧に取り上げ、会議で報告いただきたい。
- 委員 　　どんな学童なら行きたいのか、どういう気持ちで学童に行っているの
 　　か、根本的な子ども目線を大事に、子どもの気持ちで考えてもらいたい。
 　　その中で何か道筋、市全体で放課後を豊かにできればと思う。

(3) 子育て支援に関するアンケートの結果報告

(事務局より、アンケートの集計および分析結果について説明)

(説明概要)

中間年に当たり経年変化を確認するため、計画策定時のニーズ調査項目
 等について子育て世帯と市政モニターにアンケートした結果を報告した。

- 委員 　　広報以外に情報媒体がない。行政情報アプリを初めて知ったが、子育て
 　　世帯はスマホ世代なので周知すると良い。アプリを見せると特典がある、
 　　子どもを育てやすい何か良いことがあるといった工夫をしてほしい。

- 委員 　　意外に広報を読んでいると知った。アプリはPRが届いていない。

- 委員 　　2人目が生まれたときが一番しんどい状況に置かれている。虐待寸前
 　　の中で葛藤しながら子育てをされている方にとっては、子育て支援の充実を
 　　感じきれていない。少数だが、もう少し重点的にケアしてほしい。

- 会長 　　この例は特殊な例ではなく、誰しもうるべきこと。資源やサービスに
 　　繋がらずに隙間に落ちていく人を、誰がどうキャッチしていくのか、網の
 　　目から漏れないように丁寧に見ていく必要がある。

- 委員 　　子育て支援に関するアンケートとしては、当事者、子育て渦中にある人
 　　の思いを取り上げるべきであり、対象者の設定は留意があるべき。また、
 　　学童保育に関する内容などホットな内容もあるべきである。

内容に関する感想として、相談相手に保育所・幼稚園・小学校の先生方

| | |
|----|---|
| | <p>が選ばれている割合が少ない。生活指導面、子どもの育ちについて頼りになる存在になり得ていないのであれば、専門職としてこの結果への受け止めが必要である。</p> |
| 委員 | <p>各園で取っている幼稚園評価では、相談しやすいと肯定的な評価を回答する方は8～9割となる。アンケート結果と幼稚園評価を合わせ持って、保護者さんへの関わり方を考えていきたいと思う。</p> |
| 会長 | <p>相談相手が専門職というのは基本的に敷居が高いと思う。だからこそ、専門職がフォローする中で、当事者同士の交流を築いていくことも求められていると思う。</p> |

(4) その他

(事務局より、子育てフェスタ、少子化対策の取り組み等について説明)

(説明概要)

9月2日に開催した「だんないで子育てフェスタ2017」の概要、少子化対策の取り組みとして、ライフデザイン研修の事業所等活用促進事業の概要、公開講座の案内について、報告した。

4. 閉会挨拶

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

| | |
|-----|--|
| 副会長 | <p>ハード面は整える方向で進んでいるが、ソフト面として指導して下さる先生たちが整っていないのでは何にもならない。それから、保護者の方も子どものためを思って色んなことを考えていただければと思う。子育てというのは、本当は親がするものであって、保育園にしても、学校にしても、それぞれの立場で手助けをして下さっているんだということを根本には持っていてほしい。</p> |
|-----|--|

閉会